わたしたちの水道

水はどこからどのように

会津若松市水道部

〒965-0064 会津若松市神指町大字黒川字石上 33 番地の 2

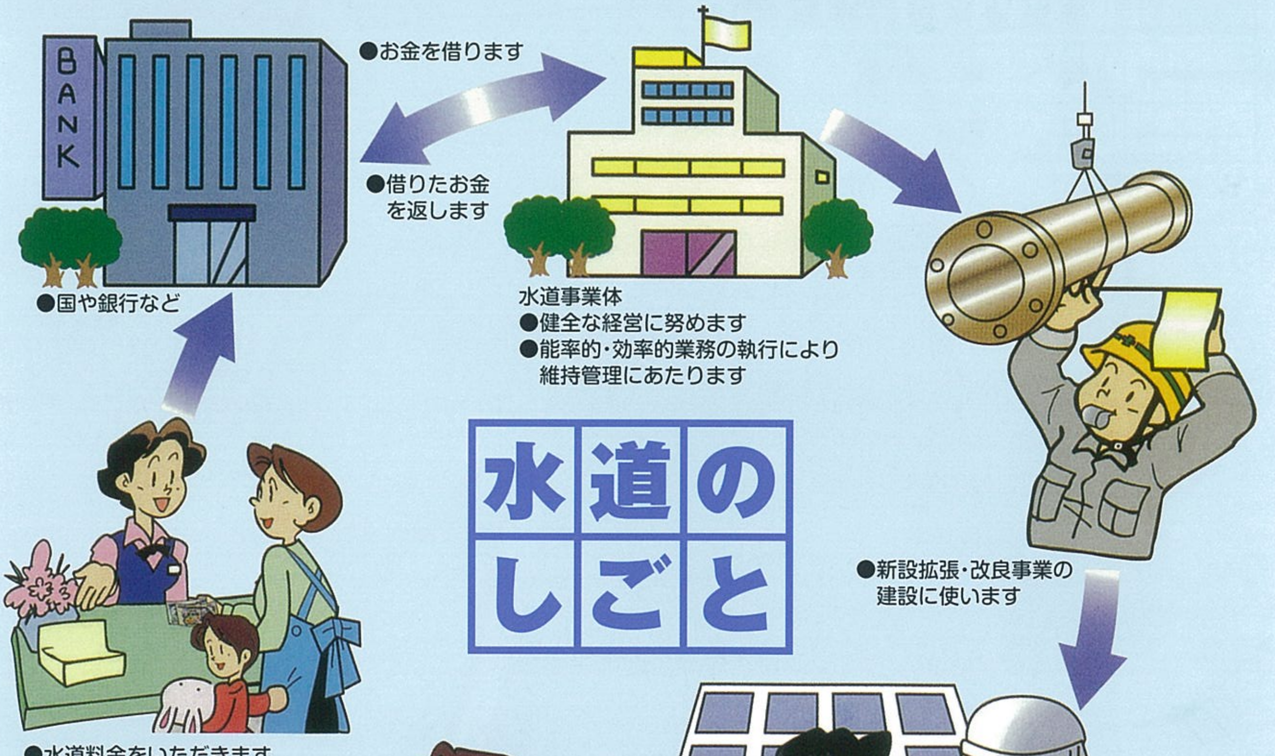
電話　0242－22－6073

猪取頭首工（本取水口兼注水用取水口）

（水道のあゆみ）

本市の水道は、大正14年9月に認可を得て翌15年5月に着手し、昭和4年4月に給水を開始しました。

その後、給水区域の拡大や使用量の増加、他町村との合併など、社会情勢の変動により、10回の拡張事業を経て、現在は老朽化が顕著となった滝沢浄水場の更新事業に着手しています。



わたしたちが毎日使っている水は、どこから、どのようにして家庭や学校などに送られてくるのでしょうか。
会津若松市では、猪苗代湖・東山ダム及び大川の水を取り入れています。

浄水場についた水は、いろいろな施設をとおり、ゴミや砂などを取りのぞきます。そして、消毒をして、きれいで安心して飲める水にし、水道管をとおってわたしたちの家庭に送られてきます。

水道の水ができるまで

1 沈砂池
水の中にまざっているゴミや砂を取りのぞきます。

2 ぎょう集沈でん池
ポリ塩化アルミニウム（ぎょう集剤）という薬を入れ、細かいまざりものをかたまりにしてしずめます。

3 ろ過池
沈でん池できれいにした水をさらに池の底にある砂の層でこします。

4 塩素注入設備
次亜塩素酸ナトリウム（消毒剤）を入れて消毒し、安心して飲める水にします。

5 配水池
消毒した飲み水をためておく池です。清潔に、そして水温を一定に保つため、池の上にはフタをしています。

6 加圧ポンプ場
使う水の量にあわせて、浄水場からポンプで圧力をかけ、遠くまで水を送ります。

わたしたちの水道